東日本大震災

# 復興の歩み
# フォト＆スケッチ展
# 2018

東日本大震災　復興の歩みフォト＆スケッチ展　2018

街に、ルネッサンス

UR都市機構

一日も早い東北の復興へ
全力で取り組んでいます

## ごあいさつ

東日本大震災から8年を迎えました。

UR都市機構は、発災直後から被災地へ職員を派遣し、復旧・復興支援に取り組んでまいりました。

「東日本大震災 復興の歩みフォト&スケッチ展」は、新たな住まいでの生活や、なりわい再建の様子、

まちづくりの現場、まちに戻りつつある活気、震災後も変わらない四季折々の風景など、

皆様が復興を感じる場面を広く発信することで、全国の皆様に被災地の様子を知っていただくとともに、

被災された方々にとって希望を感じられる場になればという思いで始まり、今回で5回目の開催となりました。

今回も皆様の復興への想いが込められた作品を全国から多数お寄せいただきました。

当フォト&スケッチ展がその想いを多くの方々につなぐことができたら幸いです。

多くの皆様からのご応募に、心からお礼申し上げます。

## 目次


UR都市機構の復興支援 04

フォト&スケッチ展概要 06

審査員プロフィール 08

受賞作品・応募作品の紹介 10

- 復興の歩み大賞　フォト 12
- 復興の歩み大賞　スケッチ 14
- 復興の歩み賞 16
  （池邊 このみ・大西 みつぐ・なかだ えり・西田 司・UR都市機構 選）
- 入賞 26
- 応募作品 34

審査の風景 38


- 受賞者および有識者審査員の敬称は省略させていただいております。
- 受賞作品の紹介内容は原則下記の順で掲載しております。
  作品タイトル／氏名／撮影・スケッチの対象場所（県、市町村）／メッセージ
- 応募作品はトリミング加工の上、掲載しております。

# UR都市機構の復興支援

平成23年3月11日に発生した東日本大震災は未曾有の被害をもたらしました。
UR都市機構はUR賃貸住宅や応急仮設住宅建設用地の提供、応急仮設住宅建設のための職員派遣など震災当初から支援を開始。
続いて、被災自治体における復興計画策定支援等のため職員派遣を行いました。
現在、25 の被災自治体と協定等を締結し、復興まちづくりの支援を行っています。

## 復興支援MAP ※平成31年1月までの実績

- 震災復興支援本部
- 復興支援事務所を設置する自治体
- 復興まちづくりを支援する自治体

岩手県 下閉伊郡 山田町
町営山田中央団地

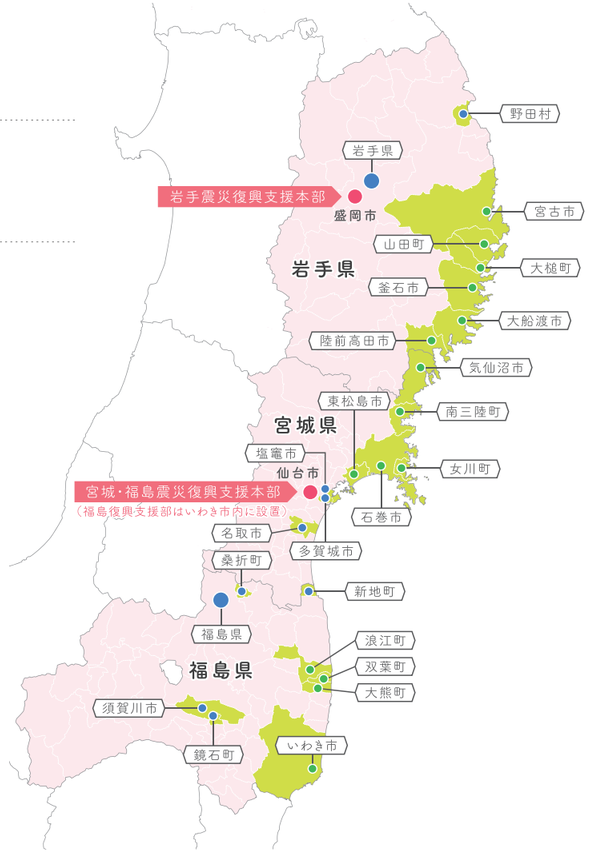
岩手県 大船渡市
防災観光交流センター

宮城県 牡鹿郡 女川町
町営大原住宅

宮城県 東松島市
野蒜北部丘陵地区

福島県 いわき市
豊間地区

福島県 いわき市
県営北好間団地




# 復興まちづくり支援の歩み

東日本大震災発生

| 平成23年4月 | 平成23年7月 | 平成23年11月 | 平成24年4月 | 平成26年4月 | 平成28年7月 | 平成30年4月 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 岩手県下への派遣開始 | 宮城県下への派遣開始 | 福島県下への派遣開始 | 現地に専任チームを配置 | 仙台・盛岡に震災復興支援本部を設置 | 工事量・業務量がピークである中、事業進捗にあわせて体制を整備 | 事業進捗にあわせて体制を確保 |
| URの現地支援体制 17人 | 37人 | 59人 | 172人 | 400人 | 460人 | 294人 |

いわきニュータウンに建設された
応急仮設住宅

権利者約 1,800人を対象に
約50回の住民説明会等を実施
（宮城県牡鹿郡女川町）

大量土の搬出のため設置された
ベルトコンベア［ 平成27年 9月作業完了 ］
（岩手県陸前高田市）

南三陸さんさん商店街開業
［ 平成29年 3月開業 ］
（宮城県本吉郡南三陸町）

**復旧支援**

UR賃貸住宅延べ970戸の提供
応急仮設住宅建設用地約8haの
提供延べ184名の技術職員を派遣

**協定締結**

25の被災自治体との間で、
復興まちづくりを推進するための
覚書・協定等を締結

**事業計画策定支援**

住民説明会や個別面談を通じて住民の
方々の意向を確認し、個別地区の事業
計画策定を支援

**工事を加速し、一つ一つ着実に事業を進捗**

津波被災地域における復興市街地整備事業では、整備を受託した約1,300haについて、平成30年度末までに約9割弱が完成予定。災害公営住宅整備事業は、平成27年度までに要請を受けた5,833戸について、平成29年度末までに完成。福島県の原子力災害被災地域における復興支援については、大熊町、双葉町および浪江町で4地区約127haの復興拠点整備を受託

※平成31年1月時点の見込

**復興計画策定支援等**

1県18市町村に延べ65名の技術職員を派遣

**体制づくり**

沿岸部の15市町に現地復興支援事務所を設置

※平成31年1月までの実績

### 復興市街地整備事業

土地区画整理事業、防災集団移転促進事業などにより、被災した市街地の嵩上げや高台新市街地の整備などを行います。UR都市機構は被災自治体より委託を受け、計画策定から工事発注・監理までフルパッケージで事業を進めています。

重ダンプによる造成工事
（宮城県東松島市）

女川駅周辺
（宮城県牡鹿郡女川町）

### 災害公営住宅整備事業

被災により住まいを失われた方、原子力災害により避難を余儀なくされている方のための公営住宅を整備します。UR都市機構は被災自治体からの要請により、住宅を建設、完成後に自治体へ譲渡します。

御社地町営住宅
（岩手県上閉伊郡大槌町）

県営泉本谷団地
（福島県いわき市）

### 復興まちづくりコーディネート業務の実施

被災自治体からの委託により、UR都市機構はまちづくりの実績や技術力を活かし、復興まちづくり事業計画策定業務、工事発注支援業務等を実施しています。

# フォト＆スケッチ展概要

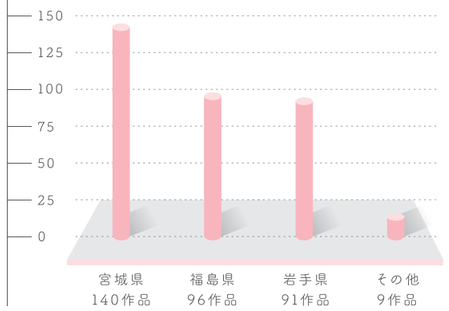
## 開催概要について

「東日本大震災 復興の歩みフォト＆スケッチ展2018」は、復興への歩みを広く発信することで被災地の復興を支援するために開催しました。応募作品は、復興を感じる場面を題材とした写真、またはスケッチとし、皆様の被災地や復興に対する想いを、タイトルとメッセージで表現していただきました。
応募資格は、できる限り多くの方々に参加していただくため、被災地にお住まいの方だけではなく、被災地を訪問された方やゆかりのある方等すべての方を対象としました（プロの写真家や画家の方を除く）。
約5ヵ月の募集期間を経て、135名の皆様から、336作品（フォト318作品／スケッチ18作品）のご応募をいただきました。その中から、4名の有識者審査員（以下、審査員）による審査とUR職員投票により、復興の歩み大賞2作品（フォト・スケッチ各1作品。審査員による協議により選定）、復興の歩み賞5作品（各審査員1作品。UR職員投票による最多得票1作品）、入賞15作品（UR職員投票による上位作品）を選出しました。
なお、審査過程では作品の応募者名を無記名とし、写真やスケッチの内容に加え、タイトルとメッセージを含めた総合的な評価をさせていただきました。

### スケジュール

| | |
|---|---|
| 2018年4月16日～9月17日 | 作品募集期間 |
| 2018年10月～11月 | 応募作品の審査［UR職員投票審査→有識者審査］ |
| 2018年11月30日 | 審査結果の発表 |

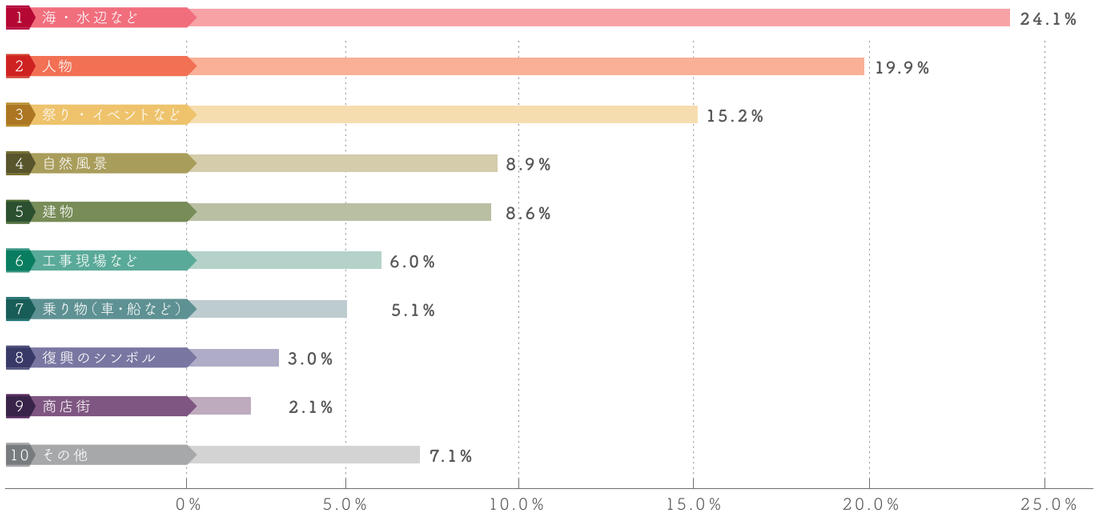
### 県別応募作品数（撮影・スケッチの対象場所）



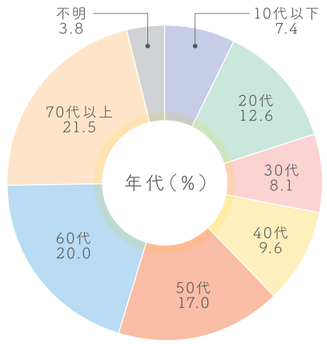

### 撮影・スケッチの対象として多く選ばれた場所

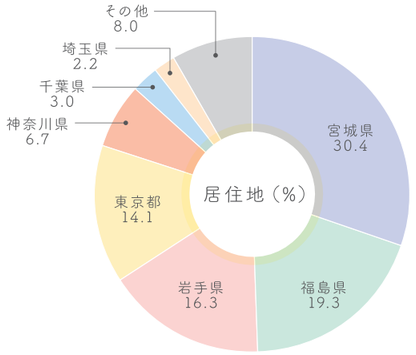
| 所在地 | 作品数 | | |
|---|---|---|---|
| 福島県いわき市 | 32 作品 | 宮城県東松島市 | 17 作品 |
| 宮城県仙台市 | 24 作品 | 宮城県牡鹿郡女川町 | 15 作品 |
| 岩手県宮古市 | 23 作品 | 岩手県大船渡市 | 15 作品 |
| 宮城県石巻市 | 22 作品 | 宮城県気仙沼市 | 14 作品 |
| 岩手県陸前高田市 | 18 作品 | 福島県南相馬市 | 11 作品 |
| 宮城県本吉郡南三陸町 | 17 作品 | | |

### 応募作品の分類




### 応募者の属性



## 審査員プロフィール

### 池邊 このみ氏 ［ランドスケーププランナー］

千葉大学大学院教授、専門は造園デザイン学。千葉大学大学院博士課程修了、住信基礎研究所、ニッセイ基礎研究所等をへて、現職。2007 年より3 か年、UR 都市機構の都市デザインチームリーダーを兼務。学術会議連携会員、国土交通省社会資本整備審議会委員、文化庁名勝部門審議委員、国土交通省景観賞審査委員、陸前高田市文化財保全活用調査委員長、高田の松原復興祈念公園構想会議委員、都市景観大賞審査委員、都市公園コンクール審査委員等を務める。

### 大西 みつぐ氏 ［写真家］

東京綜合写真専門学校卒業。1985年「河口の町」で第22回太陽賞、1993年「遠い夏」ほかにより第18回木村伊兵衛写真賞受賞、江戸川区文化奨励賞受賞。1970年代から東京の下町を拠点として撮影活動を続けるほか、大学や専門学校などで若い世代を指導、また各カメラ雑誌において記事執筆、月例コンテスト審査員を歴任するなど写真愛好家へのアドバイスも積極的に行なっている。日本写真協会、日本写真家協会会員、ニッコールクラブ顧問、大阪芸術大学客員教授。

### なかだ えり氏 ［イラストレーター］

日本大学生産工学部建築工学科卒、法政大学工学部建築学科修士課程修了。フリーランスでイラスト、執筆、建築設計など多分野で活動中。東京・千住にて築200年の「蔵」をアトリエとしてきたが、2013年より元スナックをリノベーションした建物に拠点を移す。千住の古い建物を活用する活動に参加。著書に「大人女子よくばり週末旅手帖」（エクスナレッジ／2015年）、「駅弁女子～日本全国旅して食べて」（淡交社／2013年）、「奇跡の一本松～大津波をのりこえて」（汐文社／2011年）など。「奇跡の一本松」は平成27～31年度の小学校の道徳の教科書に掲載。

### 西田 司氏 ［建築家］

1976年神奈川生まれ。使い手の創造力を対話型手法で引き上げ、様々なビルディングタイプにおいてオープンでフラットな設計を実践する設計事務所オンデザイン代表。東京理科大学、日本大学、京都造形芸術大学非常勤講師、大阪工業大学客員教授。「ヨコハマアパートメント」で、JIA新人賞／ヴェネチアビエンナーレ日本館招待作品・審査員特別表彰、「ISHINOMAKI 2.0」で、グッドデザイン復興デザイン賞／地域再生大賞特別賞、島根県海士町の学習拠点「隠岐国学習センター」など。著書に「建築を、ひらく」。

## 総評

### Konomi IKEBE ［Landscape planner］

今回の復興の歩みフォト＆スケッチ展は日常が戻ってきたという印象がとても強かったです。前回までは、お祭だったり、災害公営住宅だったり、日常風景とは少し違うポイントを表現した作品が多かったように思います。今回は働いている現状、まちの現状、それから日常の安心感のようなものが表現されている柔らかな作品も多く、ほっとするような気持ちが溢れているような気がしました。それはまさに復興の年数の賜物なのかなと思います。また、今回の審査では東日本の地域の風土、文化など、生活の歴史を何とか残したいと思い作品を選ばせていただきました。

### Mitsugu OHNISHI ［Photographer］

被災地に暮らされている皆さんというのは、具体的に言葉にならない様々な悲しみや、重たい気持ちを抱えて来られていると思います。その中でわざわざカメラを構えるというのは結構つらいことではないかなと思っています。しかし、この作品展においては、数年かけて、皆さんが自分のカメラで写真を撮り、スケッチを描かれてきました。これは非常にすばらしいことだと思っています。自分のまちや村が大きく変わっていく様を個人の目線でしっかりとまなざしを向けられるということに、改めて感心し、非常に尊いことだと感じました。そこに見えてくるものは復興の槌音とか、風景だけでなく、人それぞれの表情や暮らしで、これが最終的には心に響きます。そこには希望や意欲までも滲み出ていて、そこがこの作品展の最大の魅力だと思いました。

### Eri NAKADA ［Illustrator］

全国各地でいろいろな震災が起こっているなか、改めて7年前の東日本大震災が本当に大きかったということが思い起こされます。少しずつ作品に変化が見られ、5年も続いているこのフォト＆スケッチ展の素晴らしさを感じました。最初のころは瓦礫撤去であったり、激励や癒しのイベント的なもの、工事中などの作品が多かったですが、今回は日常を取り戻しつつある風景が多かったと思います。明るい色合いや穏やかで落ち着いたモチーフが増え、再生や復興への歩みが感じられました。

### Osamu NISHIDA ［Architect］

今回は復興が進んできた歩みというのが全体に非常に感じられました。僕は石巻に関わっていて、石巻の災害公営住宅の写真が何枚か出ていて、そこで開所式が行われたとか、お祭ができたことなどが映し出されていました。非常に淡々と作られて来たことがやっと形になり、そういう背景も含めた、時代の流れを感じました。とは云え、この作品展を通して道半ばの部分もまだあるというところを伝えていければ、エネルギーが被災地に届き、今後も復興を続けて行くという機会になればいいと思います。

# 受賞作品・応募作品の紹介

大賞
UR PHOTO & SKETCH AWARD 2018

## 復興の歩み大賞　フォト

### 最盛期　有田　勉

［撮影場所］岩手県宮古市

震災後、いち早く漁港を整備してワカメや昆布の塩蔵するための80度ぐらいのお湯に1分ぐらい入れる作業です。

［審査員コメント］西田　司

「最盛期」は、まさに復興の日常を切り出した一枚で、審査員全員一致での大賞となった。漁港を描写した作品は、望遠域で撮られたフレームの構図がとても巧みで、湯気の描写や一人一人の活き活きとした表情が、一人として重なることなく描かれている。躍動感ある写真から、暮らしがみえてくる一枚。

大賞
UR PHOTO & SKETCH AWARD 2018

## 復興の歩み大賞　スケッチ

# 復興記念大祭～獅子舞と元気な祖母

浅野 健仁

［描いた場所］ 宮城県本吉郡南三陸町

震災後初、地域伝統のみこし海上渡御が5月のこの日復活した。復興記念大祭と称された今回のこの行事。震災の際地域に残った神社に失われたみこしを寄贈して下さった静岡の方々との友好の証の日でもあった。各浜を巡る催しもあり多くの住民に活気と笑顔が戻った。そんな賑わいを表した一枚、祖母の笑顔を描いてみた。

［審査員コメント］ なかだ えり

行事を祝い楽しむ一瞬を大胆に切り取った、躍動感のある絵です。辛い日々を過ごしたことと思いますが、未来に向けて生きることへの喜びや意欲を感じ、見ていてうれしくなります。お顔や手の皺から"東北のおばあちゃん"を感じ、余白に風景を想像させます。邪気を払い、無病息災で元気に長生きを願うばかりです。

## 復興の歩み賞　［池邊　このみ選］

### 野馬追近し　高橋 直裕

［撮影場所］ 福島県南相馬市

3.11以来「野馬追い」も復興しまして、本年最後に残った「楢葉地区」も参加することになりました。復興工事で「野馬追い」も制限された海岸の馬の調教も以前のとおり、浜辺を駆けることが出来る様になりました。復興を喜ぶ「シーン」を朝焼けをとおして表わしてみました。

［審査員コメント］ 池邊　このみ

相馬といえば野馬追いであるが、最後の地区「楢葉」が参加し、また、海岸の馬の調教が復活したという、やっと相馬の日常風景が戻ったというおだやかな雰囲気が感じられました。野馬追い祭そのものの写真よりも評価が高かったのですが、朝焼けの海辺の光が浜辺を美しく照らしていて、馬と人との愛情が感じられる秀逸な作品です。

## 復興の歩み賞　［大西　みつぐ選］

### スターター　澤口 健治

［撮影場所］ 岩手県宮古市

震災後、復活したカッターレース。今年も盛大に盛上りました。ただ回りの風景は一変し防潮堤にかこまれ外からは見えなくなりました。津波から命を守ってくれる防潮堤。二度と災害のない様に願うばかりです。

［審査員コメント］ 大西 みつぐ

青空のもと振るフラッグは「青と白」。復活したカッターレースの掛け声と観客の応援が聞こえてくるような明るく元気な写真。手前から奥までしっかり描写できたことで臨場感を表現できたのと、白い防潮堤の存在が復興のシンボルとしてまぶしく浮かび上がってきます。カッターボートが力強く漕ぎ出すのにふさわしい構図です。

## 復興の歩み賞 〔なかだ えり選〕

### 旧大槌町役場　小野寺 浩

〔描いた場所〕 岩手県上閉伊郡大槌町

保存か解体かで議論された旧大槌町役場を町は解体を決めている。そんな建物の近くには、災害公営住宅が建設され、被災した人達の生活の場があった。

〔審査員コメント〕 なかだ えり

消えゆく建物と、未来の生活へとつづく建物が並ぶ、"今"の風景です。大変丁寧な筆致からこの地への思い入れが伺えます。窓がなくなり、壁が黒ずんだ役場から、年月が経ち風化が進んだ様子が伝わってきます。その隣で人々はどのような思いで見つめているのか。赤い車が人の営みを感じさせ、また構図を引き締めています。

## 復興の歩み賞 〔西田 司選〕

### 子供から見た復興　岩城 徹雄

〔撮影場所〕 岩手県宮古市

田老は防災の町として全国的に有名でした。東日本大震災においては「万里の長城」とまで言われた世界最強の防潮堤を超えて甚大な被害を出しました。この三陸鉄道田老駅ホームで被災現場の移り変わりの様子を絵本と見てる子供がいました。

〔審査員コメント〕 西田 司

タイトルが示すように、震災当時はまだ生まれていなかった子どもが、被災当時を描いた震災の絵本を見ながら、現在の風景を重ねている構図が素晴らしい。これからまちの未来を担う子どもに、復興の歩みを伝えながら、これからのまちの未来さえ想像させる一枚。

## 復興の歩み賞　〔UR都市機構選〕

### 家路　村上　真

〔撮影場所〕岩手県陸前高田市

大型商業施設「アバッセ高田」のオープン以降、何もなかったかさ上げ地に少しずつ商店が戻ってきました。震災から7年目を迎えたこの日、高台にある本丸公園からは光々と輝く街灯りと、家路を急ぐ人々の車の光跡をはっきり見る事が出来ました。

UR都市機構の職員投票により最多得票を獲得した作品です。

入賞

## 心うきうき

鹿島 和生　［撮影場所］青森県八戸市

祭りの開始までの待ち時間、祭りの楽しさを今か今かとうきうきした気持ちを抑えきれずに踊る子供達。

入賞

## オレゴンの奇跡

市川 清一　［撮影場所］青森県八戸市

東日本大震災の津波で青森県八戸市の厳島神社の鳥居がアメリカオレゴンの海岸まで流されました。その後、持ち主が奇跡的に見つかり返還され建て直されました。新しい鳥居をきっかけに八戸市とオレゴン州の絆が深まることを祈っています。

入賞

## 鎮魂の灯流れる復興の町

水野 貞一　［撮影場所］岩手県大船渡市

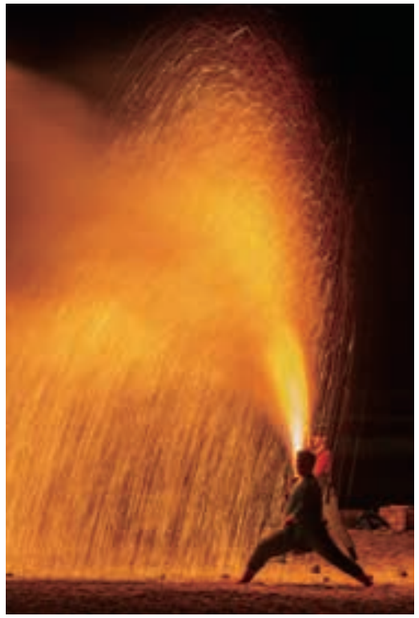
震災後も変わらぬ伝統行事「灯ろう流し」。東日本大震災犠牲者の冥福と復興を祈って静かに手を合わせました。

入賞

## ハートをつなぐ

西山　栄　［撮影場所］福島県いわき市

いわき市の海びらきの日、フラダンスを披露してくれた高校生達が海に向かってハートの輪をつくってくれました。何かさわやかで、すがすがしい気持ちになりました。



入賞

## 南三陸町手筒花火

遠藤 正弘　［撮影場所］宮城県本吉郡南三陸町

南三陸町では晩夏の風物詩「かかり火祭り」が開催され、夕方から新しくなったサンオーレ袖浜から堤防のある荒島にかけて置かれた35基かかり火に点火されて光が大津波で犠牲者の鎮魂しながら幻想的になりました。
2011年から愛知県新城市から派遣職員がこの四年前が名物にある三河手筒花火が披露されるようになり今では無くてならない鎮魂の風物詩になりました。

入賞

## 5万本の向日葵畑を駆け抜ける

金田 拓也　［撮影場所］宮城県亘理郡亘理町

地域復興のために子供達が植えたと言われる5万本の向日葵畑。
見渡す限りの向日葵畑、素晴らしかったです！

入賞

## 宮古夏祭り花火大会

菊池 靖　［撮影場所］岩手県宮古市

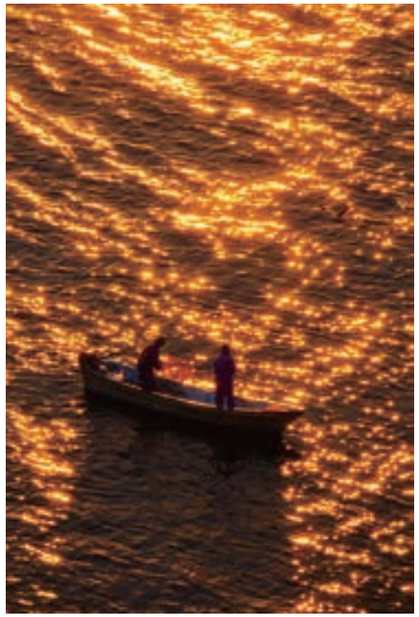
宮古夏祭り花火大会を撮影しました。震災から7年、被災地の願いを花火に込めて。

入賞

## 健やかな成長を願って

高橋 達也　［撮影場所］宮城県東松島市

東日本大震災で犠牲になった子供たちの鎮魂の為に全国から寄せられた青い鯉のぼりが、今年も東松島市大曲地区に揚げられました。五月晴れの空に元気に泳ぐ青い鯉のぼりの下で我が子を見つめる若い母親の姿に子を思う深い愛情を感じました。



入賞

## 黄金の国いわて

三浦 直諒　〔撮影場所〕岩手県大船渡市

少しずつですが日常を取り戻しているような気がしました。
負けてたまるか。

入賞

## 避難指示解除
## 2年目の桜見物

坂本 禮三　〔撮影場所〕福島県双葉郡富岡町

7年前東電の爆発事故による避難指示区域に指定され、立ち入りできなかった桜の名所富岡町夜ノ森地区。一部ではあるが昨年4月に避難指示が解除され、全長約2kmにわたる桜並木のうち約300mの区間が立ち入りできるようになった。解除後の2年目の今年は大勢の観光客やカメラマンが訪れていた。

入賞

## 見守り龍

青柳 麻理子　〔撮影場所〕宮城県気仙沼市

東日本大震災の月命日。海岸では、火を焚き空と海をみつめているご夫婦に遭遇しました。ただひたすら波の音と火の粉が上がる音。積み重ねてきた7年四ヶ月。この龍は、この場所で見守り続けてきたのだろう。そしてこれからも見守ってくれるのだろう。

入賞

## 復興の展望

遠藤 清作　〔撮影場所〕福島県いわき市

穏やかな晴天の日、塩谷崎灯台より復興の防波堤嵩上げ工事や高台の住宅整備状況を展望しました。美しいエメラルドグリーンの海原を見つめていると、震災前の美しい海岸を彷彿いたしました。

入賞

## 一緒に おがろう（大きくなろう）よ

猪又　実　〔撮影場所〕宮城県本吉郡南三陸町

生まれて初めての海が南三陸でした。親子で初めて、広いお風呂、温泉にも入りました。窓の外には養殖筏が並んだ海が見えます。カモメも飛んでいます。だけど、街はまだ盛り土のままです。この子の見つめる先は未来、共に大きく成長出来るよう、願っています。

入賞

## みんなの　おうえん

宮野 文太　〔描いた場所〕東北沿岸

おとうさんが、ぼうふうりんになるまつのあかちゃんをまもるために草取りをしました。まつの木のあかちゃんは、大きくなってつなみから人の命を守るそうです。早く大きなまつの木になってくださいね。おとうさん、かっこいい。おとうさん、うれしそう。おとうさんがいろいろおしえてくれる。おとうさん、だいすき。

入賞

## サンマ漁に向う

永盛 明夫　〔撮影場所〕岩手県大船渡市

震災の困難を乗り越え作られた大型漁船がサンマ漁の解禁に向け北の海に向う。岸壁には家族・関係者だけでなく多くの住民も集まり豊漁と操業の安全を願いテープを握る。吉兆の前ぶれであるかのようにテープは勢いよく舞う。

## 応募作品
# 宮城

宮城県気仙沼市

宮城県仙台市

宮城県石巻市

宮城県仙台市

宮城県石巻市

宮城県塩竈市

宮城県仙台市

宮城県塩竈市

宮城県仙台市

宮城県東松島市

宮城県宮城郡松島町

宮城県牡鹿郡女川町

宮城県牡鹿郡女川町

宮城県牡鹿郡女川町

宮城県牡鹿郡女川町

宮城県牡鹿郡女川町

宮城県石巻市

宮城県岩沼市

宮城県気仙沼市

宮城県気仙沼市

宮城県本吉郡南三陸町

宮城県宮城郡七ヶ浜町

宮城県牡鹿郡女川町

宮城県宮城郡七ヶ浜町

宮城県宮城郡七ヶ浜町

宮城県石巻市

宮城県牡鹿郡女川町

宮城県東松島市

宮城県石巻市

宮城県東松島市

宮城県仙台市

宮城県石巻市

宮城県仙台市

宮城県本吉郡南三陸町

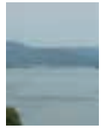
宮城県仙台市

宮城県仙台市

宮城県仙台市

宮城県仙台市

宮城県仙台市

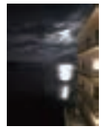

宮城県石巻市

宮城県東松島市

宮城県石巻市

宮城県気仙沼市

宮城県本吉郡南三陸町


宮城県本吉郡南三陸町

宮城県本吉郡南三陸町

宮城県仙台市

宮城県名取市

宮城県名取市

宮城県亘理郡山元町

# 岩手

岩手県宮古市

岩手県陸前高田市

岩手県陸前高田市

## 岩手

岩手県陸前高田市

岩手県九戸郡野田村

岩手県大船渡市

岩手県宮古市

岩手県陸前高田市

岩手県陸前高田市

岩手県大船渡市

岩手県下閉伊郡山田町

岩手県九戸郡洋野町

岩手県遠野市

岩手県下閉伊郡山田町

岩手県下閉伊郡山田町

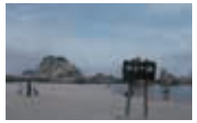
岩手県釜石市

岩手県釜石市

岩手県釜石市

岩手県陸前高田市

岩手県陸前高田市


岩手県宮古市

岩手県宮古市

岩手県上閉伊郡大槌町

岩手県大船渡市

岩手県陸前高田市

岩手県陸前高田市

岩手県宮古市

## 福島

福島県双葉郡浪江町

福島県いわき市

福島県いわき市

福島県双葉郡広野町

福島県いわき市

福島県白河市

福島県双葉郡広野町

福島県双葉郡広野町

福島県福島市

福島県いわき市

福島県いわき市

福島県いわき市

福島県いわき市

福島県南相馬市

福島県双葉郡浪江町

福島県双葉郡楢葉町

福島県伊達市

福島県須賀川市

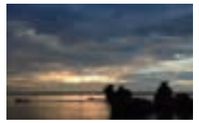
福島県双葉郡川内村

福島県双葉郡楢葉町

福島県双葉郡富岡町

福島県双葉郡浪江町

福島県相馬市


福島県相馬市

福島県相馬市

福島県大沼郡金山町

福島県大沼郡金山町

福島県南相馬市

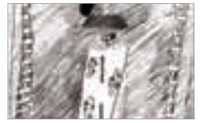
福島県田村郡三春町

福島県南相馬市

福島県いわき市

福島県いわき市

## その他


神奈川県川崎市

東北沿岸

三重県四日市市

## 審査の風景

復興の歩み大賞　フォト
［最盛期］

**西田 司**
ワカメの漁が始まり、漁港でいち早く沸騰したお湯につけているという作業風景ですが、すごく写真としてパンチがあるなと思いました。日常の場面において、復興の歩みという部分に非常にかなっているのではないかと思いました。

Osamu NISHIDA

**大西 みつぐ**
望遠レンズか、ズームレンズで撮影していて、湯気のポイントのずらし方など、構図の取り方が上手だと思いました。働いている人の顔を生き生きとした表情も上手く捉えています。

**なかだ えり**
日常に漁業が戻ってきたなというのがすごく感じられました。湯気の中に躍動感があり、映っていない海の風景とかも浮かんでくるような活力がある作品だと思いました。

復興の歩み大賞　スケッチ
［復興記念大祭～
獅子舞と元気な祖母］

**なかだ えり**
おばあちゃんが、獅子舞に噛まれるという姿から、元気とか、生きる意欲がとても感じられ、前向きに暮らしているという姿が垣間見られました。
瞬時を切り取ったような一瞬の表情というのが非常におもしろいと思いました。

Eri NAKADA

**池邊　このみ**
伝統芸能の獅子舞が復活したということが強調されていて、また、おばあさんも頑張っているという活力が感じられました。

**大西 みつぐ**
東北のおばあさんらしき表情の中に、ある1人の女性の時間軸がスケッチの中でもちゃんと表現されているのが素晴らしいと思いました。

復興の歩み賞
（池邊 このみ選）
［野馬追近し］

**池邊 このみ**
最後に残っていた楢葉地区がやっと参加できるようになった野馬追いに向け、柔らかな朝焼けの中、調教している馬が海岸を自然に緩やかに走っている姿。
昔から相馬地方にあったと思われる風景に、幸せで温かな雰囲気が迫って来ました。穏やかでほっこりするような気持ちにさせる作品です。

Konomi IKEBE

**大西 みつぐ**
砂浜で太陽が背景にあるのにもかかわらず、写真が整っていて、すごくきれいな作品です。

**西田 司**
野馬追いをこれから行うという前に向かっていく雰囲気がいいなと思いました。

復興の歩み賞
（大西 みつぐ選）
［スターター］

**大西 みつぐ**
非常に写真らしい遠近感をうまく取り入れて、しかも雲と青い空といったものをチェッカーフラッグとダブらせることによって非常に爽快感があります。
しかし、背景にきちっと防潮堤があり、3・11の傷跡も含めて、記憶が背景の奥行きの中にしっかり生きていて、非常に写真としてまとまった構図で1枚のフレームをつくり上げた作品だと思いました。

Mitsugu OHNISHI

**西田 司**
青空があって、手前でレースが行われているというわかりやすい構図で良いと思いました。

**なかだ えり**
フラッグが、スタートを感じさせます。

復興の歩み賞
（なかだ えり選）
［旧大槌町役場］

**なかだ えり**
解体が決まりこれからなくなるという役場の建物と、新たにできた公営住宅が並んでいて、新しいものと古いものの対比、現在や未来と過去との対比、定点観測の中でじっくり向き合ってスケッチされたのだと思いました。
今、この時点だからこそ切り取れる絵であり、写真的な要素も含めた記録という意味で良い作品だと思いました。また、車やコーンを描いていることで、風景の中に作者の生活感があり、人々の営みが感じられるのが良いと思いました。

復興の歩み賞
（西田 司選）
［子供から見た復興］

**西田 司**
被災当時はまだ生まれていなかったと思われる子供がこの年齢になって、自分が見たことがない当時の駅の風景を自分の想像力の中でつなげていく、それを彼の目線を通して見ているという構図がすごくいいと思いました。子供の目線を通して見ているというタイトルです。撮っている70歳の方がそれに対して想いを込めている感じよく伝わって来ます。

フォト＆スケッチ展の実施につきまして、応募者の皆様及びご協力いただいた皆様に、深くお礼申し上げます。

https://www.ur-net.go.jp/saigai/

企画・発行　独立行政法人都市再生機構　技術・コスト管理部　設計課
震災復興支援室　企画課
〒231-8315 神奈川県横浜市中区本町6-50-1 横浜アイランドタワー

制　　作　株式会社URリンケージ 都市・居住本部　企画設計部
2019年 3月発行

※本誌の写真および内容を無断で複写・転載することを禁じます。